



汽水域研究会 (JAES) NEWS LETTER

汽水域研究会発行 (本号編集責任者: 辻本彰, tsujimoto@edu.shimane-u.ac.jp)

年2回 (春・冬) 発行

第8号

2013年12月3日発行

1. 島根大学汽水域研究センター第21回新春恒例 汽水域研究発表会 汽水域研究会第2回例会 合同研究発表会 のお知らせ

日時: 2014年1月11日~12日

会場: 島根県民会館 3階大会議室 (島根県松江市殿町158)

(<http://www.cul-shimane.jp/hall/floorguide/index.html>)

参加費: 無料 (要旨集代別)

要旨集代: 1000円

【スケジュール】

1月11日 (土) 島根県民会館 (3階大会議室)

9:00-12:00: 一般発表

13:00-18:00

島根大学汽水域研究センター主催 シンポジウム

「宍道湖で何がおきているのかを再び考える」

世話人: 國井秀伸・野村律夫・瀬戸浩二

(主催: 島根大学汽水域研究センター 共催: 汽水域研究会)

19:00-21:00: 懇親会 (4000円程度)

1月12日 (日) 島根県民会館 (3階大会議室) (9:00-17:00)

午前: 一般発表

午後: 一般発表

【申し込み方法】

・研究発表の申し込みは既に終了しております。

・参加申し込みは, <http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/sympo.html> をご参照ください。

・聴講希望のみの方は, 当日受付も可能です。

ただし, 要旨集を用意できないこともあります。要旨集希望の方は, 12月20日 (金) までにお申し込みください。



会場アクセス

もくじ

1. 第2回例会案内	1p
2. 汽水域研究会2013年 (第5回) 大会報告	2-3p
3. イベント紹介	4p
4. 募集とお知らせ	4p





2. 汽水域研究会2013年（第5回）大会報告

汽水域研究会の2013年（第5回）大会が、2013年10月26～27日の2日間、独立行政法人海洋研究開発機構 横浜研究所 三好記念講堂（神奈川県横浜市）で開催されました。本大会は、汽水域研究会設立後初めて関東で開催された大会です。

26日の昼には、汽水域研究会第5回総会（2013年総会）が開催されました。議長選出の後、大会・情報・編集・企画の各幹事から今年度の活動報告と次年度の活動計画がそれぞれ説明されました。また、次期幹事について確認されました。

26日にはスペシャルセッション「どうなる、宍道湖の突発的水草分布拡大（セッションコンビナー；國井会員）」が開催されました。本セッションでは、2009年秋以降の宍道湖における突発的な沈水植物の分布拡大に関連した調査・研究に関する6題の講演が行われました。

26日の夕方にはポスターセッションがあり、9件の発表が行われました。27日にはスペシャルセッション「汽水域の新しい観測・解析技術（第2弾）」が開催され、最先端の観測・解析技術をどのように汽水域研究に生かしていくかについて議論を深めました（以下にセッションコンビナーの高安会員による詳細な報告あり）。



初日シンポジウムの様子

海洋研究開発機構のスタッフを中心とした現地スタッフの多大なるご協力により、盛況のうち会が終了しました。スタッフの皆さまありがとうございました。

2014年（第6回）大会は2014年10月頃に北海道網走にて開催予定です。 皆さまのご参加お待ちしております。（辻本彰記）

報告；スペシャルセッション「汽水域の新しい観測・解析技術（第2弾）」

複雑な現象が入り組む汽水域では、研究者の専門を生かしつつも他分野の方法や考え方を積極的に取り入れて研究を進めていく必要がある。そうした主旨で前回の広島大会に引き続き、その第2弾として本セッションが設けられた。講演は5題行われた。

14C年代測定の特化専門家・北川浩之氏（名古屋大学）による「水月湖年縞堆積物の炭素14及び年縞編年」と題した講演では、年縞堆積物の研究史を世界のスタンダードとなった水月湖の例を中心に詳しい説明があり、炭素14年代によるキャリブレーションと合わせて年縞編年の課題と将来の研究の展望について述べられた。



つづいて、海外も含む各地の年縞堆積物研究をリードしてきた会員の山田和芳氏（早稲田大学）が「湖沼年縞を用いた古環境復元研究の現状と課題」について講演し、地震記録がタービダイトとして挟在する秋田一つ目潟の年縞堆積物など、最近の成果を例示しながら、過去の災害や環境変動を年縞から読み取る際の注意点についても指摘された。

会員の山口啓子氏（島根大学）らによる「汽水域における二枚貝幼生の分布特性～中海の事例～」では、幼生期の二枚貝種識別の方法として近年開発され注目されているモノクローナル抗体法を用いて、中海のアサリとサルボウガイの幼生分布を調査した事例が紹介された。中海水域の水の動きや環境変化と合わせてプランクトン幼生の分散様式が明らかになりつつあり、今後、水産分野での貢献が期待される。

休憩を挟んだ後、小川奈々子氏（JAMSTEC）らにより「アミノ酸窒素同位体比から読みとく湖沼生態系の話」があった。近年の分析技術の進歩により分子レベルでの窒素同位体比分析が可能になり、捕食によって顕著な ^{15}N 濃縮が起こるグルタミン酸と一次生産者のみが合成可能なフェニルアラニンの窒素安定同位体比の比較から、生態系生物の栄養段階を算出し食物網を明らかにすることができるという。非常に興味深い研究で、この手法は汽水域の生態系にも大いに応用できるであろう。

また、Eko Siswanto氏（JAMSTEC）らによる「Satellite remote sensing application for red tide detection: A case study of Seto-Inland Sea, Japan」と題した講演では、周防灘から豊後水道にかけての水域において、地球観測衛星搭載のMODISデータを解析して有害な赤潮起源生物種を水中に浮遊する様々な懸濁物から分離し、その発生域と移動拡散状況を解析する方法について紹介された。水域の衛星リモートセンシングの解析手法が確実に進歩してきたとの感想を持つ一方で、沿岸潟湖のような比較的小規模な水域を高解像で観測できる水域環境センサー搭載の衛星開発が待たれるとの意見もあった。

最後に、各講演者とフロアとの質疑応答で本セッションを締めくくった。いずれの講演も、新しい技術や方法を積極的に取り入れ、問題解決に向けて果敢に取り組んだ例であり、汽水域の今後の研究にとって多くのヒントと刺激を与えてくれた。講演者の方々に深謝するとともに、今後も汽水域研究にご協力とご教示をお願いする次第である。（高安克己記）



2日目シンポジウムの様子



事務局の連絡先
 (平成24年1月7日～平成25年12月31日)
 〒690-8504 島根県松江市西川津町1060
 島根大学汽水域研究センター内

TEL 0852-32-6436

FAX 0852-32-6436

お問い合わせ先: office.rgbwa@gmail.com

汽水域研究会ホームページ

<http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/>



汽水域研究会

関心のある方は
是非ご一報を!

3. 汽水域関連イベント(2013年12月～2014年5月)

汽水域関連学会・シンポジウム

● 第61回 日本生態学会広島大会

会期: 2014年3月14日(金)～18日(火)

会場: 広島国際会議場(広島)

HP: <http://www.esj.ne.jp/meeting/61/>

● 2014年度日本海洋学会春季大会

会期: 2014年3月26日(水)～30日(日)

会場: 東京海洋大学品川キャンパス(港区)

HP: <https://www.jp-c.jp/jos/2014SM/>

● 日本地球惑星科学連合2014年大会

会期: 2014年4月28日(月)～5月2日(金)

会場: 幕張メッセ国際会議場(千葉)

HP: <http://www.jpogu.org/meeting/>

4. 汽水域研究会からの募集とお知らせ

(1) Laguna(汽水域研究)の原稿募集

「Laguna(汽水域研究)」の原稿を募集します! ホームページに掲載されている投稿規程と執筆要領を参考に、投稿票とともに編集委員会まで原稿をお送り下さい。

「Laguna(汽水域研究)」では、特定分野の研究動向を紹介するための特集号の企画を募集します。特集テーマ名や特集の主旨を編集委員会にお送りください。

投稿先: Laguna.editor@gmail.com

(大阪工業大学, 小島夏彦)

(2) 会員数(2013年12月3日現在)

正会員: 67名, 賛助会員: 1名, 学生会員: 3名, 計71名

(3) 研究会の入会方法

入会をご希望の方は申込用紙に記入の上研究会事務局までメールかFAXでお申込み下さい。

汽水域研究会ホームページ: <http://www.jaes.shimane-u.ac.jp/>

よりMS-Wordファイルの申込用紙をご利用ください。

(島根大学, 倉田健悟)

(4) 汽水域研究会の関連リンク先の情報をお知らせください!

汽水域を対象とした研究に関するWebページ, 国内学術団体, 海外学術団体, 汽水域研究会会員のWebページなど, 汽水域研究会のWebページに掲載したら良いと思うリンク先を情報幹事までお寄せください。

(島根大学, 辻本 彰)



編集後記

予定より遅くなりましたが、ニュースレター第8号の発行を無事に行うことができました。役員の任期満了に伴い、本号をもって辻本編集体制のニュースレターは終了です。ニュースレターへの記事の執筆を快く引き受けていただいた皆様、ありがとうございました。会員の皆様におかれましては、引き続き記事の執筆をよろしくお願いいたします。今年度は海洋研究開発機構で大会が開かれ、来年度は網走にて大会が開かれる予定です。全国展開していく汽水域研究会の輪を広げていくために、今後とも会員の皆様の活発な意見交換をよろしくお願いいたします。(島根大学, 辻本 彰)